

【鉄のモニュメント 工都尼崎 青年の像】

工都の「光」と「闇」の象徴

阪神尼崎駅前に設置半世紀

鉄鋼戦士の像

と

クスノキ

2022.9.22 神戸新聞 朝刊 より

「鉄鋼戦士の像」 1942年作 尼崎市中央公園

こんな像がたっている!! 阪神尼崎駅前中央公園に立って半世紀 びっくりです



【正式名 工都尼崎青年の像】鉄鋼戦士の像 碑文「工都尼崎」讃歌

躍進する工都 尼崎の姿
踏みしめる大地 火と燃ゆる情熱
鋸の響きもたくましく
永遠に輝く 繁栄の鍵は 守り継がれる
作 胡本登平

工都の「光」と「闇」の象徴

阪神尼崎駅前に設置半世紀

鉄鋼戦士の像

と

クスノキ



2022.9.22 神戸新聞 朝刊記事 より

尼崎市の阪神尼崎駅前にある中央公園を歩いていると、何やら熱い視線…。木陰から、いかめしい顔でハンマーを振りかざす銅像がこちらをにらんでくる。さらに、近くには芝生広場の中央にクスノキの一本木がそびえる。実は、どちらも間もなく設置から半世紀。この二つは当時、尼崎が工業で栄えたことをたたえつつ、公害問題の解決を願うという「工都」の光と闇を象徴しているのだ。
(村上貴浩)

繁栄の陰で公害問題深刻化

50年前の1972（昭和47）年の尼崎市といえば、人口が約55万人とピークに達し、第1回の市民祭りが開かれて街は活気にあふれた。一方で南部の空には黒煙やスモッグが立ち込め、工業廃水でごみためになった川もあった。公害対策審議会が設置されるなど、市民運動も盛んになった時期でもあった。

市の玄関口に二つのオブジェが生まれた経緯を調べてみた。

◆工都尼崎青年の像

像は左手にベンチのような道具を持ち、右手のハンマーを打ち下ろそうとしている。片膝立ちで踏ん張る足元には炎が噴き上がっている。

そう、まさに製鉄作業員の姿だ。当時の資料によると、工業の神様と尼崎の労働者を表現したといい、火打ちして作っているのは、その名も「繁栄の鍵」。像の正式名称は「工都尼崎青年の像」だが、市民の間では「鉄

鋼戦士の像」の呼び名でも親しまれている。

72年11月、尼崎ライオンズクラブが設立15周年に設置した。台座を合わせて高さは約4mで、総工費は当時の金額で300万円かかったらしい。

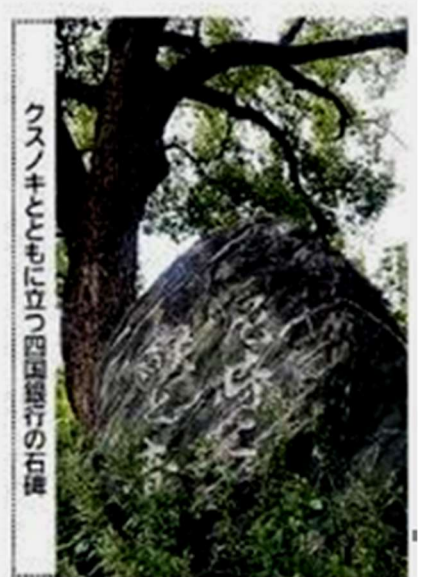
作者は地元の彫刻家、胡本蟹平さん。台座には「躍進する工都 尼崎の姿」との前書きで碑文がある。

当時の資料には「工都にふさわしいシンボルを」と設置理由を記しつつ「尼崎市には文化的な面が非常に少ない」とあり、



台座に刻まれている文言

工業の神様と労働者を表現



市民が美術品に触れられる空間をつくる狙いもあったようだ。

一方で、こんな言葉も。「人それぞれのお考えもある事とは存じます」。工都としての発展を顕彰するも、深刻化する公害問題を前に手放しでは喜べないという当時の事情がにじむ。

◆四国銀行の石碑

そんな世相の中、銅像と同時期の72年10月に植樹されたのがクスノキだ。木の下には高さ約2mの石碑を置いて「尼崎に緑と青空を」と刻む。

設置したのは、高知県に本店を構える「四国銀行」。尼崎支店の開業を記念して「高知のように、きれいな空気の街になってほしい」との願いを込め、石

碑にも高知県産の「吉野川青石」を使ったという。

四国銀行は関西への進出を進める中、支店開業時には地域で完成パーティーを開くのが慣例だった。しかし、尼崎支店はオイルショックなどの影響でかわず、石碑とクスノキの寄贈に変更。当初は2本を植えたが、1本は枯れてしまったという。

◆50年を節目に

半世紀が迫り、「工都」を支えた尼崎の鉄鋼業は企業の再編などで縮小しつつ、機械工業の台頭もあって、製造業は今も関西経済を支える。一方で公害問題は88（昭和63）年に公害指定地域が解除され、国道43号排ガス訴訟やアスベスト問題を経て、街は再生しつつある。

10月1日 神戸新聞朝刊に上記の記事が出た。定年まで鉄鋼会社に勤務してきた私の故郷「尼崎」にある「工都 尼崎の象徴『鉄鋼戦士の像』とその碑文。

阪神工業地帯の中核として日本の高度成長を支え、尼崎を人口50万の大都市の繁栄をもたらした「鉄鋼の街 尼崎」「工都尼崎」の言葉。

街が緑一杯の美しい姿に変貌する中で、「公害」・「犯罪」の悪イメージの代表として、この街でこの「工都 尼崎・鉄鋼の街」の言葉が、まるで禁句ででもあるがごとく、また、鉄の街の歴史を封印しているように見え、尼崎で育ち、鉄鋼の仕事一筋の人生を送る私には歯がゆくて仕方なし。

また、私もよく知る阪神尼崎の駅前ですが、「鉄鋼戦士」像があったなど 全く記憶なし。

居を神戸に移しても朝夕の通勤含め、毎日通った阪神尼崎の駅前の公園なのに……

駅前の公園が この間、何度も改修されたにもかかわらず、この像が維持されていることを初めて知りました。

本当にうれしい限り。 かつての「工都尼崎」の歴史の生き証人としてずっと維持してほしいもの。

また、この先蓄積してきた技術を展開して、脱炭素社会へむけて 新しい工都の姿を見せてくれる象徴になってくれたらと。

今 時代が変わって 尼崎もまた新しい街「住みよい街 尼崎」への変身を懸命に進めているのも事実。

この9月 コロナ禍の中で失職したシングルマザーの生きざまを描くNHKTV ドラマ「あなたのつづき、ここに」が尼崎を舞台に放映された。 その生きざまと共に この地域・職場に生きる人々 相互の絆・人情の機微・交流が尼崎の街でなければ……と大好評になった。

私もずっと見ていたのですが、初回は「新しい街を売り物にしたい時に、こんなに尼崎の街を露骨に表現しよって、市役所はおこつとるやろなあ」と。 でも 尼崎の街の姿 & 街に暮らす人たちの会話がすごく人気に。

私には子供のころから知る尼崎の姿のオンパレード。「こんなことも こんな人もいた」と出てくる街の姿に、思いを馳せながら、最終回まで見ていました。

今や尼崎の姿は「住みやすい街 関西No1」「関西六場の街No1」と多くの人に評価されて人気急上昇中。

でも 忘れてはならないのは 尼崎の「人情」「きさくな飾らぬ絆」等々は かつて、日本各地から数多くの人たちがやってきて、鉄鋼の街で お互いが接しあってできた気質。 変わりゆく街の中で、いわば「工都 尼崎」の財産。「工都尼崎」の歴史を消し去らず、大事にしてほしいなあ。

この「鉄鋼戦士の像」はそんな工都尼崎の生き証人 いつまでも大事にしてほしいと。

また 鉄鋼戦士像の台座に刻まれた製作者 胡本蟹平氏の碑文の詩 鉄鋼の街「工都尼崎讃歌」も忘れない。

うれしい故郷尼崎の記事でした。 私には確かな記憶なく、早速尼崎へ像を見に行きます

尼崎ライオンズクラブの木和田喜博会長(79)は「街はどんどん変わっていったが、尼崎の歴史を示す私たちの像が残っていることは誇らしい」と胸をはった。

四国銀行尼崎支店の梶原政幸支店長(47)は設置50年の節目に石碑とクスノキのイラスト付きの置き時計を得意先に配る予定という。

「人情にあふれる尼崎の街で50年間、(銀行業を)続けさせていただき、感謝しかない。石碑はその歴史の一つです」



工都尼崎青年の像が完成した当初の写真(提供)

工都の「光」と「闇」の象徴
鉄鋼戦士の像とクスノキ

工都の神話と労働者の表現

鉄鋼戦士の像碑文「工都尼崎」讃歌

躍進する工都 尼崎の姿
踏みしめる大地 火と燃ゆる情熱
鉄の響きもたくましく
永遠に輝く 繁栄の鍵は 守り継がれる

作 胡本蟹平